

平成 28 年度「授業評価・授業研究報告」

学校教育講座 梶原郁郎

(1) 授業の目的

道徳教育指導論（二年度後期：140 名）の目的を、愛媛大学教育学部学校教育教員養成課程のディプロマ・ポリシー（以下、DP）との関係において明示しておきたい（『履修の手引き』平成 27 年度入学者適用（2 頁））。

- (1) 教科・教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している（知識・理解）。
- (2) 学校現場で生じているさまざまな教育課題について論じ、適切な対応を考えることができる（思考・判断）。
- (3) 子どもの発達に応じた授業・保育の構成や教材・教具の工夫ができ、個に応じた指導や説明ができる（技能・表現）。
- (4) 実践を省察し、自己の学習課題を明確にし理論と実践を結びつけた学習ができる（意欲・関心）。
- (5) 教職に関する使命感や責任感を身につけ、教育的愛情を持って幼児・児童・生徒に接することができるとともに、多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる（態度）。

道徳教育指導論の授業内容は次の通りである。(a) 道徳教育の基礎的・基本的知識、(b) 道徳教育の内容と評価、(c) 道徳教育における他者形成、(d) 潜在的カリキュラム論、(e) 道徳教育の指導案作成上の基本的視点、(f) 社会認識形成と道徳。以上の内容は DP と次のように対応している。

(a) 道徳教育の三つの立場、学習指導要領における道徳教育の位置づけ、教育課程行政における道徳教育強化の動向、1989 年指導要領以降の児童生徒の内面評価の問題等は主に DP (1) に対応する。
(b) 道徳教育に関わる問題として、学校現場で生じている教育課題として内面評価の問題があり、

これは教科における意欲・関心・態度の評価の問題にも及んでいる。児童生徒を評価する前に、教師は評価項目そのものの妥当性を検証する必要がある。以上の内容は主に DP (2) に対応する。
(c) 教科教育特に理数系教科と道徳教育との関係づけについては指導要領が問うところでもあるが、その関係づけは実際にはどうすればいいかは教育学で課題提起されている。その内容と方法を見出せない学的現状を踏まえて、算数教育において他者形成を保障する内容・方法を講義内容とした。各学年においてその内容・方法をどうするかという課題も含んだその内容は、DP (1) に加えて DP (3) も踏まえたものとなっている。
(d) 教科教育において教師が知識理解を保障できず児童生徒が知識の棒暗記をする問題は、潜在的カリキュラムとしていかなる問題を持つのか。これは教師としての基礎的知識として必要なものだが、教師が日々の授業を省察する観点としても不可欠なものである。この点で、以上の内容は DP (4) に対応している。
(e) 副読本を用いた授業を実際にどうするかに関するこの内容では、道徳の指導案作成上の基礎的観点を取り上げている。実践後の省察の視点としても有用なその観点は、DP (4) に対応している。
(f) 社会認識形成と道徳的行為との関係に関する講義は、『君たちはどう生きるか』の一章分の読書を五回ほど課して進めた。同書は、社会科学の基礎的概念を児童生徒にどう翻訳するかとう内容も含んでおり、これに関する講義内容は DP (1) に加えて DP (3) も踏まえたものとなっている。

なお DP (5) の「使命感・責任感」を育む課題は、以上の講義内容の基底をなすものだが、それを授業で保障できたかどうかは、知識理解をもって示すことが難しく、したがってそれを保障できたかを裏づける証拠の提示が難しいので、(5) は授業目標として設けても、授業の評価項目として設定できない。

(2) 地域を核とした教育と研究のつながり

授業内容・方法に関する教育学のこれまでの知見を集積して、それを検討・選択して新たな授業内容・方法を創出して、それに地域に還元していくことを報告者は課題としている。その還元の在り方として報告者は、情報提示のみならず、新たな内容・方法による教育実践を研究者自らが行うあり方をも採っている。その成果は、実践映像を含めて上記講義内容(c)に組み込んでいる。児童の認識過程は、授業内容・方法研究を前提としつつ、教育現場を通してはじめて得ることができる点で、(c)の講義内容は、地域を核とした教育と研究のつながりを作るものである。

(3) 授業内容理解に関する学生の自己評価

このアンケートは道徳教育指導論の評価を示すものである。アンケート内容と結果は次の通りである(140名)。

(1) 授業全体として授業の内容は理解できたか。 [17名] できた 12% [13名] できなかった 9% [110名] ほぼほぼできた 79%
(2) 道徳副読本の教材を二つ取り上げて、指導案を作る練習をしました。(a) 指導案の書き方の一例は、理解できたか。 [6名] できた 4% [87名] ほぼほぼできた 63% [46名] できなかった 33% [1名] NA
(b) 実習対策のこのような授業を、もっとふやしてほしいか。[53名] ふやしてほしい 38% [71名] ちょうどよい 51% [15名] へらしてほしい 11%
(3) 算数教育における他者形成の局面については理解できたか。 [39名] できた 28% [24名] できなかった 17% [77名] ほぼほぼできた 55%
(4) (a) 挙手回数による意欲の評価がはらむ潜在的カリキュラムの問題は理解できたか。 [108名] できた 77% [5名] できなかった 4% [27名] ほぼほぼできた 19%
(b) 教科の知識の単なる暗記がはらむ潜在的カリキュラムの問題は理解できたか。 [84名] できた 60% [6名] できなかった 4% [50名] ほぼほぼできた 36%
(5) 『君たちはどう生きるか』などの本を読む授業 (a) 小中高の授業に直接はつながらないように思えるこうした本を読むことは、必要だと思うか。

[38名] 必要 27% [77名] ほぼほぼ必要 55% [25名] 必要ではない 18%
(b) 宿題としていた範囲は、読んできたか。 [48名] 毎回 34% [81名] ときどき 58% [6名] 1・2回 4% [5名] 読んでこなかった 4%
(c) 章と章との間を、本文に基づいて読むという読み方は経験できたか。 [27名] できた 19% [23名] できなかった 16% [90名] ほぼほぼできた 64%
(d) この経験は、教師になるものとして必要だと思うか。 [47名] 必要 34% [70名] ほぼほぼ必要 50% [23名] 必要ではない 16%
(6) 道徳教育指導論の授業は、将来の教師としての仕事の参考になったか。 [39名] なった 28% [23名] ならなかった 16% [78名] ほぼほぼなった 56%

(4) 授業改善のための課題

授業内容を組織する上で今回工夫した点を明示して、以上のアンケート調査結果を踏まえて授業改善の課題を整理する。以下の課題を通して DP の一層の保障に取り組みたい。

(4-1) 授業内容の工夫: 授業内容を組織するに当たり、学生が学校での学びの在り方を自身が直視して省察できる場面を組み入れるようにした。これなしに、特に (b) (c) (d) は理解できないので、教科の知識が実は理解できていなかったということを振り返る作業を入れた。その一定の成果は、アンケートの質問 (2) (3) に見られるが、特に (3) の「できた」という数値を上げることが課題である。

(4-2) 授業時間外学習の促進: 『君たちはどう生きるか』の章毎の読書を授業外学習とした。その際、第 3 章の〇〇の問題は第 4 章でどのように発展しているかという課題を提示するようにした。その一定の成果はアンケートの (5) (b) の「毎回」「ときどき」の合計数値 (129名: 92%) に示されている。この数値を上げる課題は、(5) (a) の「必要ではない」という読書嫌い傾向への対応を含む。

(4-3) 実習対策: 質問 (2) (a) の「できなかった」という自己評価が 46 名 (33%、この点は授業内容の改善を、副読本の教材選択をも含めて行いたい。指導案をどう書くかに関する説明、学生に指導案原案を考えさせる時間を多くとり、改善を図りたい。